

母乳バンクを知っていますか？

川口市立医療センター

新生児集中治療科 いちかわ **市川** ともりの **知則**



母乳には粉ミルクなどの人工乳と比較して、各種ホルモンや免疫物質をはじめとするさまざまな成分が多く含まれています。そのため、感染症にかかりにくい、アレルギーが予防できる、白血病になりにくい、神経発達が良くなるなど、赤ちゃんに多くの効果があるとされています。

さらに、早産などで小さく生まれた赤ちゃんにとって、母乳で育てられることは、これらの効果の他に、消化管の常在細菌叢*を安定化させ、壊死性腸炎やミルクアレルギーといった重篤な疾病から守ってくれる大切な作用が期待できます。しかし、さまざまな理由により、お母さんの母乳を十分に赤ちゃんにあげられない場合には、他のお母さんから提供される母乳が必要となります。特に、非常に未熟な状態で生まれた赤ちゃんや消化管の手術をした赤ちゃんでは、母乳が命綱になることも多くあります。

日本では古くから、他のお母さんの母乳をもらう「もらい乳」という習慣があり、最近まで病院単位でもらい乳を行っている施設が多数存在していました。しかし、感染症の危険性や安全管理などの観点から、一元化されたもらい乳制度の創設が急務となり、平成25年にようやく日本でも「母乳バンク」が発足しました。これにより、ドナーミルクの供給量やドナー登録者数も年々増加していますが、現状ではいまだ需要に追いついておらず、さらなるドナー登録施設の増加や拡充が望まれています。当院は、令和5年に県内で唯一の母乳バンクドナー登録施設となり、市内外から、これまでに40人を超えるお母さんにドナー登録のお申し出をいただいています。ドナー登録は、簡単な面談、搾乳方法や注意点などの説明の後、採血検査を受けていただき、1時間程度で終了します。ご協力いただける授乳中のお母さんがいらっしゃいましたら、ぜひ、(一財)日本財団母乳バンクまでご一報ください。

*常に体内の決まった部位に存在し、良い働きをする細菌



▲日本財団
母乳バンク
ホームページ